ふしぎなフーセンガム

わたしは、わたし

1年　S・Tさん

この本では、ゆびあみがすきなじゅんくんがフーセンガムをかんで女の子にへんしんします。じゅんくんは女の子になったほうが、じぶんのすきなことがたのしくできていました。わたしも、ゆびあみのすきな子は女の子、サッカーがすきな子は男の子というイメージがこころの中にあります。おかあさんにきいてもおなじようにおもっていました。

どうしてそうおもってしまったのか、この本をよんでふしぎにおもってかんがえてみました。あみものをする女の子やサッカーをする男の子たちをよくみかけるからかもしれません。むかしからそうだったと大人たちがいっているからかもしれません。大人たちがほかの子たちとあわせなさいといっているからかもしれません。いろいろおもいついたけれどどれが本とうのりゆうかはわかりませんでした。でも、なぜかわからないのにこころにあるイメージで人をみてしまうと、その人が本とうはどんな人かわからなくなってしまうかもしれないときづきました。

わたしが、この本でいちばんすきな文は、「だから、『あたしは、あたし』でいいとおもうんだ。」です。わたしも人がどうおもっているのかをきにして、じぶんの本とうのよさがわからなくなってしまうことがあります。でもこのことばをよんでわたしはわたしでいいんだとおもえて、すこしじしんがつきました。ひとのよさにきづくためには、まずじぶんのよさにきづくことが大じだとおもいます。

これからは、わたしはわたしとおもいたいです。そしてみこのいいところをみつけたじゅんくんのように、わたしもほかの人の本とうのよさをみつけられるようになりたいです。